

百円銀貨が面白い！

第2回

裏写り

日本近代銀貨研究会

近代コインには時たま、表裏の図案が反対面に一部陰打ちされたものが見受けられます。特に明治の金貨、旭日竜の銀貨などに見受けられますが、代表的な例として「大型五十銭黄銅貨、光線入り」が挙げられます。現行コインにも時たまオークションなどで陰打ちされたものが紹介されていますが、昭和三二年から四一年までの百円銀貨にも存在することがわかりました。

◇鳳凰百円銀貨 光線入り

鳳凰の首の後ろから背中にかけての曲線のくぼみに、裏面の旭日が放射線状に写ったものが見つかります(図5)。三二年、三三年の両年号に確認されます。収集家の方の中にもお持ちの方がおられるかもしれませんが。当方が把握しているのは三二年一枚、三三年二枚のみで非常に稀なものと言えましょう。

◇稲穂百円銀貨 裏写り

稲穂面に裏の分銅面の横線と「100」のうちの「0」の一部が写ったもので、現在三八年から四一年まで確認されています。三九年のものが比較的多く確認されていますが、他の年号のものは数枚ずつしか見つかっておらず、なぜ三九年に集中しているのか、その理由は分かりません。また、中には「横線」だけのもの(図6)や「0」だけのものも存在することを付け加えておきます。

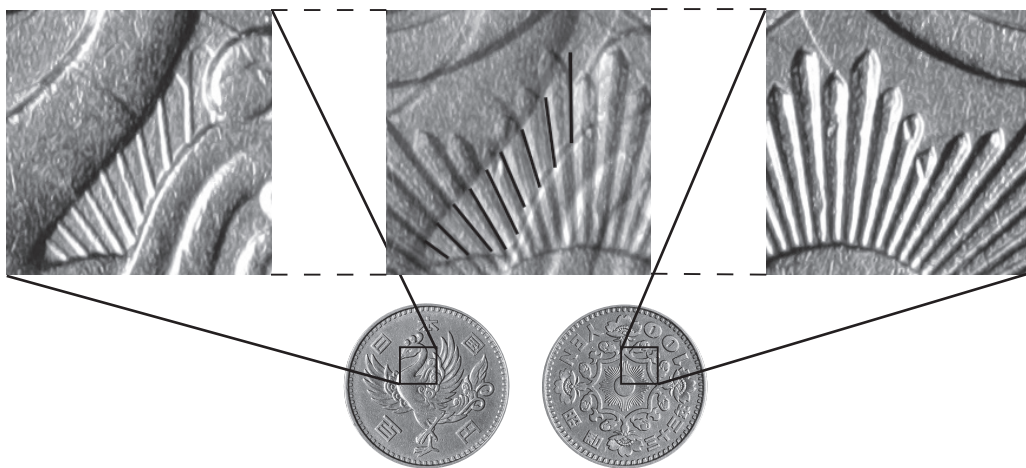


図5 鳳凰百円銀貨 光線入り

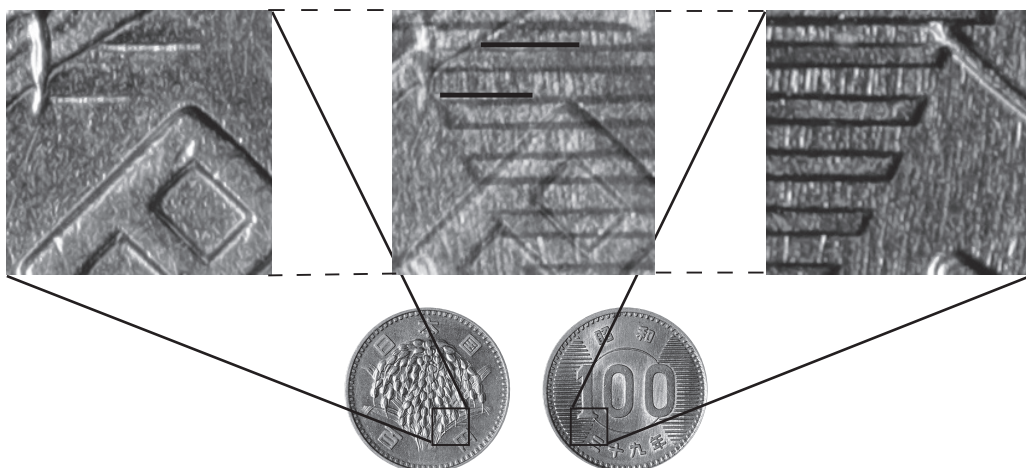


図6 稲穂百円銀貨 裏写り

※図5・6の上部3枚の拡大画像のうち、画像中央の画像はコイン裏の拡大画像(右)を反転させ、コイン表の拡大画像(左)と重ね合わせたものであり、裏写りによる線条の重なりを確認することが出来る。